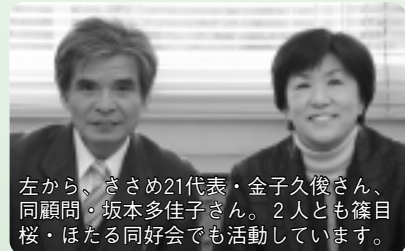


町内探検隊

篠目町は、話題満載。町内会活動以外にも、地元の人が集まって組織し、自主運営で活動している皆さんがいます。今回はその中から2団体を紹介します。

『篠目桜・ほたる同好会』は「子どもたちにホタルの光を届けたい」という思いから昭和58年に活動を開始。明治用水中井筋沿いで毎年4月の第1日曜日(今年は4月5日(日))にホタル放流式と桜鑑賞会、5月中旬～6月中旬はホタル鑑賞会を主催。

そして、『ささめ21』は「明るく・



左から、ささめ21代表・金子久俊さん、同顧問・坂本多佳子さん。2人とも篠目桜・ほたる同好会でも活動しています。



今月の舞台 篠目町

楽しく・心のふれあいを！」をモットーに普段は月に1回、篠目公園の清掃活動をしています。また、7月の第4土曜日(今年は7月25日(土))には、地元の小学生たちのマーチングバンド出演や、中学生のボランティアスタッフなどの参加もあり、総勢2000人にもなる盛大な夏祭りを催します。

ここに桜が咲き、ホタルが飛び交うのか…。そんな想像をめぐらしながら緑道を歩いていると、「愛知県畜産総合センター種鶏場」と書かれた看板を目にしました。話



一昨年前の篠目公園夏祭りの様子

を聞いてみると、そこは県の施設で、なんとあの有名な「名古屋コーチン」の親鶏にあたるヒナを出荷しているとのこと。昭和12年に設立され、現在はその維持・増殖に力を入れているそうです。種鶏場からヒナが供給されている「ふ化場」という所では、県内合計で年間130万羽もの名古屋コーチンが生産・出荷されているとのこと。皆さんが口にする名古屋コーチン、元をたどれば、実はすべて安城出身だったんですね。

まだまだ紹介しきれない篠目町。今後、防犯活動の取り組みについても特集する予定です。お楽しみに。



名古屋コーチン

わたしの望遠郷



「日本一暑い街」このキャッチフレーズで観光誘致までしている街が多治見なのです。幼いころはそんなことはなかったのですが、これは名古屋のヒートアイランド現象の影響だと言われています。JR名古屋駅から中央本線で30分。美濃焼の産地として有名で、市内には由緒ある窯元や陶磁器に関する美術館などが点在しています。私の故郷の市之倉地区はかつて盃(さかすき)の生産日本一でした。そんな歴史に触れることができるのが「市之倉さかすき美術館」。盃の歴史を見て有名作家や若手作家の作品も鑑



賞でき、お土産も充実しています。また、春・秋に市があり、そぞろ歩きしながら掘り出し物を手に入れることができます。

多治見の見所はほかにも。一つは夢窓国師が開創された虎渓山永保寺。国宝のお堂が二つあり、桜と紅葉が見事な庭もあります。もう一つが、日本男子三代修道院の一つ、神言会多治見修道院。ブドウ畑も広がり売店でワインも売っています。この修道院の中に30年くらい前まで畳が敷いてあったのです。畳の



秋の永保寺

上でミサなんて、畳好きな多治見人の発想だと思うのですが…。この二つの名所は隣接していますので、散策にはぴったりです。

市川 弥生さん(相生町)
(写真提供:多治見市)



春の神言会多治見修道院



永保寺近くの散策道



元気っ子アルバム

いとうらん
伊藤蘭ちゃん(3歳)
旬くん(1歳)



誕生日が一緒の僕たち☆お姉ちゃんの後をついて回るのが僕の日課♡でも、お姉ちゃんは4月から幼稚園。さみしいなあ…。
お父さん：浩二さん
お母さん：奈美希さん (里町)

さとうこうえい
佐藤煌瑛くん(3歳)
汐莉ちゃん(1歳)



2人は仲良しで、いつも一緒に遊んでいます。でも、4月からお兄ちゃんは幼稚園。私はお家で早く帰ってくるの待ってるね。
お父さん：武志さん
お母さん：可奈さん (東端町)



やまもとしょうた
山本梢太くん(8か月)

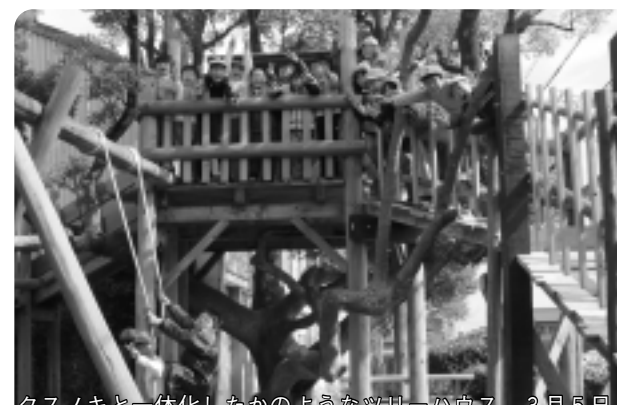
こんにちは、梢太です。いつもニコニコの僕はごはんも上手に食べれるんだ！たくさん食べて元気に大きくなるよ。
お父さん：真靖さん
お母さん：陽子さん (榎前町)

「わたしの望遠郷」「元気っ子アルバム」コーナーでは、皆さんからの投稿をお待ちしています。
わたしの望遠郷▶皆さんの出身地を紹介 元気っ子アルバム▶皆さんのお子さんを紹介
申し込み方法など詳しくは、電話で秘書課広報広聴係(☎71>2202)へ。

スクールナビ



明和小学校



クスノキと一体化したかのようなツリーハウス。3月5日、4年生(当時)を中心とする児童が撮影に協力してくれました。

学校を紹介するスクールナビ。今回は明和小学校です。

学校の自慢は『トムソーヤの森』。この森に、「自然の中で子どもたちが遊べる場・施設を作りたい。でも、校庭にある大きなクスノキも傷めたくない」そんな思いが結実して、平成15年にツリーハウスができました。今

では、児童が放課に鬼ごっこをしたり、ブランコで遊んだりして親しまれています。夏場には木陰で読書も楽しめそうです。そしてもう一つの自慢は、敷地の中に井戸があること。平成18年に、学校創立100周年へ向けて掘られ、『明和百年の泉』と名付けられました。井戸からくみ上げられた水は、先ほどのトムソーヤの森にあるピオトープへもつながっています。以前の循環式からオーバーフロー式(かけ流し式)に替えたところ、

では、児童が放課に鬼ごっこをしたり、ブランコで遊んだりして親しまれています。夏場には木陰で読書も楽しめそうです。そしてもう一つの自慢は、敷地の中に井戸があること。平成18年に、学校創立100周年へ向けて掘られ、『明和百年の泉』と名付けられました。井戸からくみ上げられた水は、先ほどのトムソーヤの森にあるピオトープへもつながっています。以前の循環式からオーバーフロー式(かけ流し式)に替えたところ、



明和百年の泉

詰まりもなくなり、水道代の節約もできると、まさに一石二鳥。

はだして遊ぶことも少ない現代に、この学校では、田植えの後に井戸水で足を洗うことができます。また井戸水は、冬は暖かく、夏は冷たいそうです。全校児童を合わせても、400人に満たないという明和小学校。小規模学校の良さか、はたまた地域性か。写真撮影に訪れた日も、森中をのびのびと駆け回り、カメラに笑顔に向けてくれた児童がたくさんいました。